

がんは、初回の治療で治し
ることが大切です。一度再
発してしまうと、完治の可能
性はかなり低くなりますか
ら、敗者復活戦のない一発勝
負に近い面があります。当然、
治療法は慎重に決める必要が
あります。医師も、がんの種
類や進行度はもちろん、患者
の年齢や体調、さらに家庭や
仕事など、「全人的」に診な
がら、治療法を提案します。

しかし、治療法は医師が押
しつけるのではなく、患者や
家族と相談しながら決めてい
くものです。病気との向き合
い方、一番大切にしたい点、
仕事は休めるのか、頼れる家
族はいるのかなど、状況は千
差万別です。さまざまな要素
を判断して、一人一人に最適

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

放射線治療 イメージアップへ

た時に考えたこと、家族や主
治医との関係性、医師から勧
められた治療法、手術や放射
線治療に対する印象など、多
岐にわたりました。インター
ネット調査により、各200
人超の回答を得ました。

子宮頸がんでは回答者の78
%が、前立腺がんでも62%が
手術を選んでいました。高齢
の男性が多い前立腺がんも30

手術や放射線治療に対するも
とものイメージが、治療法
の選択に決定的な影響を与え
ていたのです。

患者本人の希望、社会的な
状況などよりも、手術や放射
線治療に対する印象そのもの
が治療法を決定する可能性が
あるということです。なお、
同時に実施したがん罹患者
(りかん) していない人に対
する調査では、がんについて

の知識やリテラシーが高い人
ほど、放射線治療への印象が
良いという結果が出ました。

医療ドラマなどでも、手術
が主役で、放射線治療は出る
幕がありません。これからも、
放射線治療のイメージアップ
に努めたいと思います。

(東京大病院准教授)

な治療を提供できる医師が名
医なのだと思います。

多くのがんで、手術と放射

線治療は同じくらいの治癒率

をもたらしませんが、その代表

が子宮頸(けい)がんと前立

腺がんです。私たちは、これ
らの患者が、受けた治療法を
選んだ理由を明らかにするた
めの調査を行いました。

質問は収入や職業、婚姻状

況や経済状態、治療法を決め

る